

令和4年度
各課職員の人権意識啓発に関する
テーマ・取組予定一覧

2022年（令和4年）5月23日

人権男女共同平和国際課

(参考) テーマ分類

※複数回答を含む

分野別番号	今年度 (令和4年度)	前年度 (令和3年度)
① 男女平等の社会づくり	16	18
② 子どもの人権	29	26
③ 高齢者の人権	19	23
④ 障がいのある人の人権	31	37
⑤ 同和問題	6	4
⑥ 外国につながるのある市民の人権	17	14
⑦ 患者等の人権	8	8
⑧ 就労者の人権	37	40
⑨ 犯罪被害者の人権	4	5
⑩ ホームレスの人権	3	4
⑪ インターネット上における人権	18	13
⑫ セクシュアル・マイノリティの人権	32	125
⑬ さまざまな人の人権・さまざまな人権課題	15	6
合 計	235	323

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
総務部 5	1	行政総務課	事実婚カップルの人権を考える	⑫	令和3年3月、同性カップル婚姻制度を利用できないことが違憲である旨の判決が出されました。また、社会的な意識も変化しています。総務担当にあつては職員に関わる諸制度に関わっていくにあたり、法務担当にあつては原課の政策立案の法的サポートにあたり、そのような変化を認識しておく必要があります。	人権施策推進担当者が教材を用意し、意見交換中心の研修会を実施する。
	2	職員課	障がいのある職員への人事上及び業務上配慮すべき事柄について学ぶ	④	障がい者雇用の推進に伴い、障がいのある職員を多様な職場に配置していくにあたり、障がいのある職員への業務上の配慮について引き続き学ぶ必要があるため。	キャリアアップ事務員が配置されている課等との意見交換等を通じ、障がいのある職員への人事上の配慮及び各職場において配慮してもらうべき事項について学ぶ。
	3	文書統計課	働き方改革、ワーク・ライフ・バランスの理解の推進	⑧	職員一人ひとりの事情に応じた、多様で柔軟な働き方を理解し、今までの職場を見直すきっかけとするため。	職員一人ひとりが日常の業務と個々の生活の調和を意識するとともに、課内会議などの機会を通じてワーク・ライフ・バランス等について理解を深め、積極的な休暇取得・時間外勤務の削減を心掛け、効率的な業務遂行の仕方について考える。
	4	情報システム課	情報セキュリティと人権の確保	⑪	全庁の情報セキュリティの確保、特に個人情報情報の取り扱いについてはICTとの関連において各課へのアドバイス等を実施しているところですが、今回人権と情報セキュリティとの関係やプライバシーについて改めて学習し、セキュリティ確保の活動の更なる向上につなげたい。	資料、DVD等の教材や、個人情報流出等実際に発生したニュースを題材に研修を実施、及びそれらの学習と現在の情報セキュリティ確保の取り組みとの関連を改めて検討する。
	5	行革内部統制推進室	近年社会課題となっているインターネット上における人権について理解を深める	⑪	業務上インターネットを使用する際はもちろん、プライベートにおいてSNSを利用する際にも、適切な配慮を行いながら情報発信をすることが必要であるため。	啓発冊子等を用いた研修を実施することで、基本的なことや現状について学ぶとともに、意見交換を行い、より身近な問題として一人一人の理解を深めていきたい。
企画政策部 5	6	企画政策課	多くの人権問題の原因となる貧困・生活困窮の現状と課題解決に向けた取組みを知らるう	⑬	SDGsで示される複数の目標を達成するうえで、貧困・生活困窮をなくしていく取組みを総合的に考えていく必要があるため。	新聞記事や、市で持っている情報を課内で共有し、貧困・生活困窮をもたらす原因や、その影響について学ぶことで、問題が身近なものであること感じる機会とし、SDGsの取り組みを検討するうえの一助とする。日頃からのコミュニケーションにおいて人権意識の向上を図る。
	7	秘書課	外国につながるのある市民の人権について改めて理解を深める	⑥	今般のウクライナ情勢により、戦争や民族紛争に起因する人権侵害の問題が浮き彫りになったことを受け、わが事として考えるきっかけとするため、あらためて多文化共生について学ぶ機会をつくる。	「藤沢市多文化共生のまちづくり指針」をはじめ、多文化共生についての教材を用いて理解を深め、意見交換を行う。
	8	広報シテイクン課	各課からの依頼に基づく様々な媒体における市政情報の発信や、シテイクン活動を実施するにあたり、人権を尊重する扱いができてきているのか、多角的な視点で考えられるよう感性を磨く	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	課の特性上、対象に関わらず人権を意識して業務に携わる必要がある。知識として覚えるのではなく、各個人が人権について感性を磨くことは、広報活動、シテイクン活動に関わる職員として大切なことと考えるため。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
企画政策部（つづき）	9	人権男女共同 平和国際課	多文化共生の視点から多 様性の理解	⑥	外国につながるのがある市民に対する差別・ 偏見をなくし、多文化共生について 理解を深めるとともに、市職員として、多様 性を認める視点を再確認する必要があるた め。	法務省作成の人権啓発ムービーである「ベ ティの色鉛筆」を視聴し、多文化共生や多 様性に関する理解を深める。感想を交換し あうことで、一人ひとりが正しい知識を習得 して差別や偏見について理解を深め、人権 意識の向上を図る。
	10	デジ タル 推 進 室	情報化社会におけるSNS やインターネット掲示板に おける人権侵害に関する 事例等を研究し、理解を 深める	⑪	デジタル化を推進するにあたり、相手の立 場を尊重しながら、広い視野で人権に対す る理解を深め、誰もとり残さないためのデジ タル化推進業務に取り組む必要がある。	DVDを閲覧し、主に子どもたちがインター ネットを利用する上での危険性や、安全な 利用法・対策について理解を深めるととも に、実際に起こったインターネット上での 人権侵害に関する事例を学ぶことで、「だれ一 人傷つけない」デジタル化を目指す。
財務部 8	11	税 制 課	セクシュアル・マイノリテ ィの人権	⑫	2021年4月から本市でパートナーシップ宣 誓制度が開始された。また、12月には2市1 町による自治体間連携も開始されていること から、セクシュアル・マイノリティの人権に対 する理解を深めるため。	本市及び連携自治体における宣誓制度の 利用状況等の基礎知識について、リーフ レット・DVD・ハンドブックを活用するととも に、朝礼や課内会議で意見交換を行い、セ クシュアル・マイノリティの人権に対する理解 を深める。
	12	納 税 課	障がいのある人の人権	④	納税課業務において、パーソナリティ障が いのある人、あるいはそれに近い状態の人 と接する機会があるため。	課内会議の中で庁内職員を講師とした研修 を行い、そのような症状について理解を深 めるとともに、課内全体で適切な対応が図 れるようにする。
	13	市 民 税 課	就労者の人権	⑧	就労者の人権を意識しながら、お互いを認 め合い尊重することで、その意識が業務に も影響し、良い接遇や施策につながることを 目的とします。	課内会議に合わせた研修会を実施して、 DVDの視聴などを行うほか、普段の業務で もお互いに発言しやすい雰囲気になるよう な声かけを行う予定です。
	14	資 産 税 課	セクシュアル・マイノリテ ィの人権についての理解を 深め、多様性を学び、業 務や日常生活に活かす	⑫	様々な目的・立場で来庁される市民に対し て、多様な性を尊重し、一人ひとりに寄り 添った対応ができるようにするため。	理解すべきセクシュアル・マイノリティの基礎 知識についてDVDを活用するとともに、セク シュアル・マイノリティのドラマなどについて 意見交換をしながら、セクシュアル・マイノ リティへの理解を深め、ジェンダー平等への 意識向上に繋げていく。
	15	財 政 課	続・ハラスメントのない職 場環境の形成	⑧	多くの課の職員との調整を行う職場であるこ とから、お互いの立場を尊重できるよう、ハラ スメントについての理解を引き続き深める。	昨年度に取組んだパワーハラスメントを含め た、様々なハラスメントについて、具体例を 通して学んでいく。
	16	契 約 課	誰もが働きやすい職場環 境について考える	① ⑧	長時間労働の抑制や休暇の積極的な取得 によるワーク・ライフ・バランスの推進、社会 の対等な構成員として、性別役割分担の解 消をはじめとする意識改革を促す。	どうすれば長時間労働の抑制や積極的な 休暇取得が可能か課内で話し合うとともに、 職場研修等において関係資料を活用し、性 別役割分担の解消等の意見交換や情報共 有を図り、人権意識向上に取り組む。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
財務部 (つづき)	17	管財課	職員同士が共に働きやすい職場環境について理解を深め、意識啓発など積極的に取り組み、今以上の風通しの良い職場環境作りを目指す	①	男女の脳の構造上の違い等をお互いに理解し、職員同士の意識啓発を図り、市民対応にも活かし、柔軟な働き方が出来るようにするため。	DVD等の教材を使用したの課内研修を実施し(課内会議時に実施予定)、職員同士お互いに理解を深め、風通しの良い職場環境作りの向上を図る。
	18	検査指導課	「セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の人権を尊重するために」 (1)啓発活動の推進	⑫	セクシュアル・マイノリティはごく身近な存在となっており、昨年度に続き啓発活動の推進による知識の向上、理解をさらに深めていく必要があるため。	理解すべきセクシュアル・マイノリティの基礎知識についてDVDを活用するとともに、セクシュアル・マイノリティのドラマなどについて意見交換をしながら、セクシュアル・マイノリティへの理解を深め、ジェンダー平等への意識向上に繋げていく。
防災安全部 3	19	防災政策課	防災分野における外国につながる外国人の市民への対応について	⑥	防災安全部では、防災意識の啓発、防災知識の普及に取り組んでいることから、職員一人ひとりが防災分野における外国につながる外国人の市民への対応を高める必要がある。	防災分野における外国につながる外国人の市民への対応等について、職員間で情報共有や意見交換を行う。
	20	危機管理課	障がいのある人の人権を考え、理解を深める	④	障がいのある方ない方に関わらず、多様な人々が暮らす市においては、災害対応という切迫した状況の中でも、適切な判断や対応が必要不可欠となります。日常生活にも新型コロナウイルス感染症による様々な影響があり、障がいのある方々を含め生活環境が一変する中、職員一人一人が人権を考え、意識を深め、理解し取り組んでいくことが、様々な状況に応じた適切な対処につながると考えるため。	人権貸出用DVDを活用し、障がいに関する知識、理解を深めていく。 夕礼や課内会議の中で意見交換などのディスカッションを実施し、共有するとともに課内での意見集約に努める。
	21	防犯交通安全課	「子どもの人権」について考える	②	刑法犯の認知件数が、戦後最少を更新するなど、防犯情勢は全体として改善状況が続いているが、個別では「特殊詐欺」「児童虐待」「配偶者間暴力」「サイバー犯罪」など増加傾向・高水準の犯罪もある。中でも、近年一貫して相談件数が増加している「児童虐待」について理解するために「子どもの人権」について学習し、日常業務の一助とする。	課内研修などにおいて、「子どもの人権」について学習し、意見交換をするなどして各自の人権意識を再確認する。
市民自治部 14	22	市民自治推進課	障がいのある人の人権	④	令和4年度市民センター公民館すべてに光警報装置設置目指していくことになったことから、「障がいのある人の人権」について考え、職員一人ひとりの人権意識啓発を図る良い機会と考えたから。	DVD「障害のある人と人権 誰もが住みよい社会をつくるために」を視聴し、意見交換を行う。できる限り、朝礼や課内会議など複数回に渡り、意見発表や考える機会を設けたい。
	23	市民窓口	「婚外子」及び「戸籍に記載がない人」についての知識と人権に関する理解を深める	⑬	「婚外子」及び「戸籍に記載がない人」について、人権課題の理解及びあるべき対応への認識が、当課の業務遂行上必要であるため。	課内会議等で「婚外子」及び「戸籍に記載がない人」について詳しい者からの説明を受けた上で、どういった人権課題があるか、現行の対応や改善すべき点等について意見交換を行い、今後の業務に活かす。
	24	市民相談情報課	同和問題について、正しく理解し、考える	⑤	業務において、同和団体や、関連個人と接する機会があり、本年度は新採用職員が配属されたため、改めて基本知識を習得し、全職員が、窓口で間違いのない対応ができるようにするため。	同和問題とは何か、の基本的知識を資料で研修後、法務省作成の同和問題に関するYouTubeを視聴し、意見を出し合う。また、職員の体験した事例について紹介し、意見を出し合う。同和問題を課題とした書籍の紹介を行い、知識の向上を促す。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
市民自治部（つづき）	25	セン 会 タ ー 市 民	外国につながるのがある市民の人権、文化・民俗等を学び、地域に住む隣人として理解を深める	⑥	住所異動の手続きなどに来庁される外国籍の市民が増えていることから、わかりやすく、人権や多様性を尊重した対応を心がける必要があるため。	資料や教材を使用して、課内研修を実施するとともに、意見交換を行い、人権啓発の機会を設けることにより、外国につながるのがある市民の人権・文化等に関する理解を深め、職員への意識啓発を行う。
	26	セン 片 瀬 市 民	高齢者の人権についての理解を深め、より丁寧な窓口対応に活かす	③	片瀬市民センターの窓口で高齢者が来庁される機会が多く高齢者に適した接遇や制度についての知識を深めて日々の業務に活かすため	高齢者支援の制度や高齢者に接する時の注意点についてDVDや専門家の講義を聞く機会を設け意見交換して日々の業務に活かす。
	27	セ 明 治 市 民	インターネット上の人権について理解を深める	⑪	誰でも簡単にインターネットを利用できるようになり、人権問題、犯罪、トラブルに発展するケースが増えている。利便性とリスクが共存することを認識し、適正に利用するための意識啓発を行う。	課内会議でDVDを視聴するほか、機会をとらえ関連する新聞記事等を回覧するなど社会動向を認識し、意見交換を行い意識の向上を図る。
	28	セン 御 所 見 市 民	高齢者の人権	③	御所見地区は高齢者が多く、窓口にもよく来られるため今後の対応の参考にしたい。	課内会議等の中で時間を設けDVDを視聴、意見交換を行いたい。
	29	セ 遠 藤 市 民	藤沢市の支援教育と合理的配慮について考える	② ④	前年度は子どものいじめとセクシュアル・マイノリティについてを取組内容とし、職員の人権意識の高揚を図ることができた。令和4年度は、子どもの人権についての理解を更に深めるため、本市の支援教育と合理的配慮をテーマとする。	課内会議などの機会を利用して、年間テーマについての学習会と意見交換を行う。近くの小学校は特別支援学級が設置されており、今年度は難聴学級も開級した。近くの中学校も令和5年度に特別支援学級が開級予定であることから、市内の特別支援教育の概要についても学ぶ内容とする。
	30	セ 長 後 市 民	社会の多様性を認識するための基本的な感覚を身に着ける	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑦	市民センターには子ども、高齢者、障がいのある人、外国につながる人など、様々な人が来館するため、そういった方々への対応を自然に行えるように職員の意識を醸成する。	視聴覚教材などを用い、自分たちの周りにある多様性を再度認識する。また、意見交換などをおして身近な環境について理解を深めるとともに対応などのノウハウを共有する。
	31	セ 辻 堂 市 民	障がいのある方への合理的配慮について	④	障がい者等の相談窓口を併設しており、障がいのある方への合理的配慮について、センター公民館の職員もより一層の理解を深めるため。	専門的な知識を有する、障がい者等の相談窓口の職員から、講義を受ける。また情報共有をすることで、きめ細やかな対応ができるよう努めていく。
	32	セ 善 行 市 民	SDGsを普及啓発するとともに、ジェンダーフリーな社会づくりを推進するため、SDGsのゴール5が「ジェンダー平等を実現しよう」であることを踏まえ、持続可能な社会の実現に向け、職員の意識の向上を図る	①	2021年10月に「藤沢市SDGs共創指針」が策定されたことを踏まえ、市としてジェンダーフリーな社会づくりに取り組む必要があるため。	年間テーマに資する情報提供を随時実施するとともに、DVDの視聴等を通じ、職員・職場での意識の向上と共有を図る。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
市民自治部（つづき）	33	湘南大庭市民センター	「みんなの頼りになる」市民センター・公民館にしよう	① ② ③ ⑬④ ⑤ ⑥ ⑫	昨年4月にパートナーシップ宣誓制度が開始され、あらゆる信条、性向等を尊重することが求められており、また、多様なルーツをもつ市民や障がいのある方など、あらゆる来所者の人権を意識した市民対応を定着させるため。	市民対応の質の向上につなげるため、職場研修を実施するとともに、朝礼の場などを活用して、職員相互の「気づき」を紹介しあうことにより、人権意識の向上を図る。
	34	湘南台市民センター	インターネット上における人権 セクシュアル・マイノリティの人権	⑪ ⑫	インターネットを気軽に利用でき便利になった反面、リスクも理解して人権侵害を起こさないよう意識啓発を行う。また、パートナーシップ宣誓制度をより理解するために、セクシュアル・マイノリティの知識を深め、窓口業務の一助とする。	DVDの視聴等を利用し、疑問や問題点を出し合い、職員みんなで知識と理解を深める。
	35	セ鵜沼市民センター	障がいのある人の人権	④	令和3年度を取組内容を引継いで行いたい	令和3年度を取組内容を引継いで、点字についてもう少し複雑なものに取組みたい
生涯学習部 7	36	生涯学習総務課	障がいの特性を理解し、障がいがある人への配慮を考えることで人権問題に取り組む	④	所管する施設が多い部署として「障がい者の避難誘導等への配慮について」（4月26日障がい者支援課通知）等にしっかりと取り組むため、障がいのある人への理解を深めることがあらためて必要なため。	課内会議終了後研修ビデオを鑑賞し、意見交換を行う。
	37	藤沢公民館	複合施設来訪者の人権を尊重した対応を心がける	② ③ ④ ⑥ ⑫	Fプレイスは複合施設であるため、様々な方が様々な目的で訪れるので、より相手の立場に立った対応が求められるため。	・来訪者の情報を職員間または複合施設内で共有できるような風通しの良い職場づくりを行う ・さまざま来訪者に対応できるよう職場研修を実施し、人権意識をさらに高める
	38	村岡公民館	様々な人権課題について理解を深める	⑨ ⑬	あまり知られていない犯罪被害者の人権やハンセン病問題についての理解を深めるため。	啓発用動画を視聴したうえで、館内会議等で問題についての話し合いを行う。
	39	郷土歴史課	働き方改革、ワーク・ライフ・バランスの理解や行動の推進	⑧	職員一人ひとりの事情に応じた、多様で柔軟な働き方を理解し、業務内容等を見直すきっかけとするため。	職員一人ひとりが日常の業務と個々の生活の調和を意識するとともに、各種教材を用いてワーク・ライフ・バランス等について理解を深め、積極的な休暇取得・時間外勤務の削減を心掛け、効率的な業務遂行の仕方について考える。
	40	文化芸術課	バリアフリーやユニバーサルデザインといった、すべての人に使いやすい施設などについての事例などを学ぶ。また、すべての人が働きやすい職場づくりなどについて考える	① ④ ⑥ ⑧	市民会館等再整備事業の進捗に合わせ、施設について具体的に考える必要があるため。また不規則勤務職場ならではの課題などもあるため、改めて「働きやすさ」とは何かを考えてみたい。	新たに開館したホール施設などの事例研究（可能なら施設見学）。また、可能ならハード面だけでなく、ソフト面での先進的な事例研究など。 新聞などの記事を参考に、年間テーマに関連した内容について学ぶ。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
生涯学習部 (つづき)	41	スポーツ推進課	障がいのある人の人権	④	スポーツにおける共生社会の推進に向けて、障がいのある人に対する理解や多様性を尊重することにより、誰もがスポーツに親しめる環境を構築するため。	令和4年4月から新たなスポーツ推進計画が始まり、共生社会の推進や多様性の尊重について計画内に記載しているため、「障がいのある人の人権」「多様な性と人権」をはじめ様々な人の人権の理解を深める。
	42	総合市民図書館	図書館におけるアクセシブルな電子図書サービスの提供	④	令和4年10月、藤沢市図書館において事業開始予定の「電子図書サービス」は、文字の拡大機能や音声読み上げ機能等を備えており、視覚障がい等のある方に対して、利用しやすい読書環境を構築する一助となるため。	2019年6月施行「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)においても、基本理念の一つに「先進的な技術等を活用して、視覚障がい者等が利用しやすい電子書籍等の普及を図ること」とうたわれており、電子図書サービス普及の検討や実際に利用をされた方々からの聞き取り、また、日頃から協力をいただいているボランティアの方々からの意見をうかがいながら、より良いサービスの実現を目指していく。
福祉部 7	43	福祉総務課	外国につながるのある市民の人権	⑥	ウクライナ避難民の問題など、外国人の人権について考える必要があることから。	課内会議等で外国人の人権について様々な視点から考える機会を設ける。
	44	介護保険課	高齢者が抱える課題や高齢者への接し方について、人権の観点から考える	③	日常的に高齢者に関わることの多い課として、成年後見人と窓口や電話で対応することが多くあるので、成年後見人の役割や業務について正しい知識を持って対応するため。	庁内の成年後見人制度に精通した職員を講師として学習会を開催し、成年後見人に対する知識を深め、高齢者の人権についての理解を深めるとともに、日常生活や窓口・電話対応業務において活用していく。
	45	保険年金課	高齢者人口が増加している状況から、高齢者の人権について理解を深める	③	高齢者の人権を考えることで、日常生活や業務において、人権意識が高まると思われるため。	高齢者の権利擁護と成年後見制度を学ぶため、課内研修を実施する予定。
	46	障がい者支援課	障がい者の権利擁護と虐待防止の市民周知	④ ⑫	障がいのある人の地域生活を守る上で、自己の意思決定や虐待防止の視点が重要であり、市民の方々等の早期発見による早期対応が極めて重要であるため。	障がい者支援課内にある虐待防止センターの相談員や藤沢市障がい者総合支援協議会権利擁護部会におけるご意見を参考に課内において意見交換を行う。
	47	高齢者支援課	患者等の人権「ケアラー支援について」	⑦	当課の業務として高齢者の介護予防や重症化予防を進めるうえで、その家族や周囲を取り巻く人々の人権に目を向けることが重要と考えるため。	朝礼や夕礼等による情報共有を必要に応じて行うとともに、課内研修の一環としてこのテーマを取り上げ、事業担当者から現状と課題について情報提供を行うとともに、課内でも日頃遭遇する事例などについて話し合い、テーマについて各自の考えを深めていく。
48	生活援護課	人権を尊重した適切な医療扶助の提供	⑦	新型コロナの影響により、生活保護利用者への家庭訪問が十分に行えないなか、利用者の病状を正しく理解し、自立に向けた適切な医療扶助の提供が求められるため。	職場研修を開催し、生活保護利用者への適切な医療扶助の実践方法について学ぶ機会を設けるとともに、医療診断会議等を通じて人権に配慮したケースワーク業務の在り方について意見交換を行う。	

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
福祉部 (つづき)	49	地域共生社会 推進室	児童虐待から考える人権	②	児童虐待に至る経過には、親が現代社会の中で様々なストレスを抱え、そのはけ口から子どもへ虐待をしてしまうことを想定し、家族を救うため、近隣住民などができる支えについて考える。	室内会議の中で時間設定し、DVDを視聴し、感想を述べ、全員で意見交換をし、家族を守る視点から人権を考える。
	50	地域医療推進課	就労者の人権～職場環境の整備と働き方を考え、職員の仕事と生活の調和を図る～	⑧	多様な仕事の進め方を職員自ら検討し選択していく時代になった。業務の効率性を向上させるためにも仕事と生活の調和を意識することが必要であるため。	(1)情報の共有(職員同士による業務の進捗状況の把握) (2)ノー残業デーの遵守、年次休暇取得の積極的勧奨 (3)知識の取得(研修DVDの視聴・意見交換等)
	51	健康づくり課	子どもや高齢者、障がい者、セクシュアル・マイノリティなど様々な人権について理解を深め、職員一人一人の意識の向上を図る	① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑫	子どもから高齢者までの全世代の健康づくりを担う課として、日々の業務において多様な市民に対応することから、一人ひとりの意識の向上を図る必要があるため。	①様々な人権に配慮し、対象者に寄り添った対応を心がけるよう、日々の業務の中で呼びかけるとともに、課内会議等において、具体的な対応等について意見交換を行う。 ②職場内での人権にも配慮し、コミュニケーションの向上を図りながら、お互い協力しあえる体制について、日々の業務を通して検討を行う。
	52	地域保健課	新型コロナウイルスワクチン非接種者に対する差別や偏見の防止について	⑬	新型コロナウイルスワクチンについて対象の方に接種勧奨しているものの、接種自体は任意接種であり、本人の判断により接種しない判断をされた方への接種の強制や差別的な扱いをすることは許されない。さらに小児のワクチン接種も開始されたが、小児の接種については努力義務もないにもかかわらず、接種していないことについていじめ等にもつながることが考えられるため。	課内で差別や偏見については許されないことを再確認し、接種勧奨のチラシにも「周りに接種を強制したり、非接種者に対して差別的な対応をすることはあってはあってはならない」と明記する。
	53	保健予防課	新型コロナウイルス感染症患者、精神障がい者、HIV感染者、難病・認知症の方など、さまざまな人権課題を抱えた対象者に対する理解や認識を深める	④ ⑦ ⑫	当該各分野については、従前より本課の業務に密接に関係し、継続して取り組んでいるところです。ポストコロナにおいて、各事業が通常どおり展開されることを見据え、改めて各対象者の権利について考え、接遇の向上を図っていきたい。	職場研修で人権のDVDの視聴・意見交換や人権研修の復命を共有し、新型コロナウイルス感染症・HIV等感染症やセクシュアル・マイノリティの課題、精神障がい者の生活課題の理解を深める。
	54	生活衛生課	インターネット上における人権	⑪	ネット上のかきこみ等がたびたび問題になり裁判まで起きており、今後職員が中傷の対象になり得るため。法整備も不十分で影響力が大きい。情報発信の際に意識できるようにするため。	昨年度と同様に、集合型での研修ではない形で時期を分け人権について、資料等を活用し、意見交換等を行い意識の向上を図る。
	園 14 子ども青少年部	55	子育て企画課	子どもの人権を学び子どもの気持ちを考え施策につなげる	②	藤沢市子ども・子育て支援事業計画・子ども共育計画により子どもにかかる施策の推進を図っていくため、子どもの人権を学ぶ機会とするため。
56		子ども家庭課	貧困や生活困窮について理解を深め、相手の立場に立って考えられるように取り組む	⑬	相談対応を行う上で背景に貧困や生活困窮などがあることがあり、対応を学ぶことで貧困や生活困窮に陥っている世帯に寄り添いながら行う支援について学び、支援者が「してあげる」のではなく、相談者が「してほしいことをする」支援を考える機会とするため。	地域共生社会推進室内にある「バックアップふじさわ」の職員を講師に招き、生活困窮者支援制度についてや実際の支援について研修を行い、日々の業務に生かせるように実施する。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
子ども青少年部（保育園）（つづき）	57	保育課	インクルーシブ保育の実現に向けて、子どもたちの人権を考える	②	令和4年度は、保育園での医療的ケア児の受入れを目指していることを踏まえて、インクルーシブ保育の観点から、本テーマを設定するもの。	職場研修等において、インクルーシブ保育の事例等の共有を図り、意見交換を行いながら、子どもたちの人権について理解を深める。 引き続き、日常的な人権意識の啓発として、朝礼で「にこやかクレド」を読み上げ、意識浸透を図る。
	58	藤沢保育園	②子ども、保護者、職員、一人一人の価値観や多様性を受容し、相手の立場に立って寄り添っていく ⑧職員一人一人が尊重され認め合い、自分らしさを発揮できる職場づくり	② ⑧	②職場全体で日常的に人権意識を持ち肯定的な関係性づくりから、安心・信頼できる保育園運営を目指す ⑧職員間で、立場や経験年数にとらわれず、互いの良さを認め合い一人一人の力を引き出せる職場環境づくり	②人権チェックリストを活用し、ジェンダーやインクルーシブな視点も考慮していく ②保育の中で子ども向けに人権について伝える機会を持ち、保護者にも取り組みを伝えていく ②⑧人権研修を行い、身近な事例提起や意見交換から価値観を広げ肯定的な視点を高める ⑧職場全体で参画し「今月の人権目標」を立案し朝礼時に読み上げ、日常的に人権意識を高める
	59	辻堂保育園	子ども、保護者、職員一人ひとりが大切な存在であることを認識し、労り合い、励まし合いながら、つながりを強くしよう	② ⑬	さまざまな社会状況の中、人とのコミュニケーションやつながりの大切さを職員が心にとめ実践することで、職員自身や保護者・子どもに温もりのある日々を感じてもらいたい。	・昨年度作成した人権日めくりカレンダーに自身の思いなどをプラスして、人権への意識を高めていく。 ・DVDを活用し、さまざまな人権について理解を深める。 ・保育園の中の人権についてや、子どものつぶやきを拾って語り合う機会をつくる。
	60	鶴沼保育園	・一人一人の違いを認めたり、相手を思いやる気持ちを持つようにする ・日常の自分の行動（言葉、態度）を振り返り、よりよい自分を見つけていく ・セクシュアル・マイノリティについての理解を深め意識しながら、園児、保護者、地域の方、職員に対しての配慮すべき点を考え、実践する	② ⑫	・インクルーシブ保育を目指すうえで、必要な知識や意識を深めるため。 ・昨年度からの取り組みを引き継ぎ、セクシュアル・マイノリティについて職員一人一人が正しく理解をするため。	・職員会議や話し合いの場において、事例検討やグループディスカッションを行う。また、振り返りを行い、それぞれが対応について考え実践していく。 ・人権のDVDを視聴し、意見交換の場を設ける。
	61	藤が岡保育園	子ども・保護者・職員一人一人の違いを認め、互いに尊重しながら人権意識を高める	② ⑧ ⑫	・様々な立場や違い、考え方を尊重しあい、人権意識を高めあいながら、一人一人が安心できる職場づくりをすすめていくため ・昨年度からの藤沢市パートナーシップ宣誓制度導入に伴い、今年度はさらに日々の業務の中で乳幼児期の性的マイノリティ意識を高めていくため	・月の人権目標を立案、掲示することで意識できるようにする ・人権チェックリストを活用し振り返りを行う ・会議等の中で、保育に直結した身近な人権について取り上げたり、回覧などを通し、人権の知識を深める ・幼児組を中心に保育の中で人権について伝える機会を持つていく
	62	善行保育園	子ども・保護者・職員一人一人の違いを認め合い、相手に寄り添う気持ちを大切にしよう	② ⑧	一人一人が互いの違いを認め合い、思いやりの気持ちを育んでいきたい	・月の人権を全職員で分担して作成する（掲示し、朝礼で確認） ・人権チェックリストやDVDを活用し、自己の振り返りをするとともに、意見交換の場を持つ ・職場内で人権研修を行う（会議やクラス話し合いなど）
	63	明治保育園	多様性を尊重し合い、子ども・保護者・職員が生き生きと自分らしく過ごせる環境をつくる	② ④ ⑧	子どもに関わる保護者・職員が多様性を理解し尊重し合う関係づくりに取り組み、その中で子どもが心も体も健やかにのびのびと過ごし、個性を認めていくことに繋げるため。	・子どもの人権を意識した具体的な配慮、職員同士の関わりの中で大事にしたいことを全職員から集め、日々確認をしながら実践していく。 ・人権チェックシートを各自で行い、振り返りをしていく。 ・ひとりひとりが主役となる誕生会で、子どもの良さを伝えていく ・幼児クラスで定期的に集会を行い、子どもにも人権についてわかりやすく伝えていく ・継続的な取り組みとして保護者へ「ハッピーアドバイス」の掲示をし、懇談会などでも知らせていく

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
子ども 青少年部 (保育園) (つづき)	64	浜見 保育園	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者、地域の方、職員、それぞれの立場や置かれている状況、思いに寄り添い、多様性を認め合える環境作りをする LGBT他多様性について、職員の意識向上を図る 	② ⑧ ⑫	<p>様々な人々のありのままを「個性」として捉え、肯定的な見方が出来るようにし、人権に配慮した関りが出来るよう、気づきを皆で声に出せるような職場のチーム力を図っていききたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎月人権目標を掲示したり、「人権振り返り表」等を活用し、人権について振り返る機会を設ける。又、職員同士意見交換をし、互いの考え、思いを知る。 幼児クラスに人権集会を行い、絵本等を活用しながら人権について分かり易く知らせていく。又、保護者へも集会内容を掲示等で伝え、意識啓発していく。 性の多様性について、DVD等を活用し職員間で意見交換や情報共有を行う。
	65	湘南台 保育園	<ul style="list-style-type: none"> 人権への理解を深め、子ども・保護者・職員一人一人の存在を大切にしよう 職員同士互いを尊重し合い、自分らしさを発揮できる職場作り 	② ④ ⑧ ⑫	<p>人には様々な違いがあり、それを自由に表現し、一人一人が安心して過ごせるようにする。そのため理解や思いやりの気持ちを広めたい。</p> <p>職場内にある、いろいろな立場や経験年数にかかわらず、自由に意見を述べ合い、風通しのいい職場にし、チームワーク力を高めていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保育の中や職場研修で人権について取り上げていく。また、その内容について保護者にも掲示して知らせていく。 定期的に入権チェックシートを活用し、振り返りや新たな課題発見につなげていく。 保育につながる人権目標を掲示し、朝礼で確認するなどして、職員間での意識を高めていく。
	66	善行乳児 保育園	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者、職員、一人一人の個性や価値観を認め合い、尊重し、相手の立場に寄り添っていきける心を育む 	② ⑧	<ul style="list-style-type: none"> どんなときでも肯定的な視点で互いを認め合い、支えあっている職場づくりを行っていくため。 一人一人の人権への意識を高め職員・保護者・子どもが安心してすごしていけるようにするため。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が分担して月ごとに人権目標を立て一人一人が人権に対して意識を持てるようにする。 人権擁護のためのチェックリストを活用して自己の保育を振り返るとともに、子どもや保護者に対して人権を意識した関りができているか確認できる機会をもつ。 人権チェックカードを昨年度よりも現場に即したものにし、より身近な職員・子ども・保護者に対しての人権擁護を理解し意識できるようにしていく。 期ごとに人権についての振り返りを行い、会議で気づきや反省等を共有していく。
	67	柄沢 保育園	「みんな違ってみんないい」という園の合言葉に思いやりの心、違いを認め尊重する心を育む	② ⑧	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場や相手の思いに寄り添い、一人一人の違いを認めて大切にするという意識を育みたいと考えたため 職員間では年齢や立場にとらわれることなく、良いところを見つけあえる関係ができると風通しのよい職場作りにつながると思ったため 	<ul style="list-style-type: none"> 人権、チェックリストを使用し定期的に自身自身を振り返りをする。また職場、クラス間でそれを共有していくことで様々な視点から振り返りをする。 標語について幼児向け集会を取り入れる。職員向けに掲示をし人権目標を積極的に示し、意識向上を図る。またその取り組みを保護者向けの掲示等をし、園の取り組みを知ってもらう。
	68	しぶやが はら 保育園	一人一人の違いを互いに認め合い、ありのままの自分を受け止められながら、自己肯定感を育み、人を信頼し、尊重し合える職場作り	② ④ ⑧	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの人権を守ることを最優先とし、互いを尊重することが、ともに働く職員間での人権意識を高め、チーム力アップにつながると考えるため 医療的ケア児の受け入れが始まるにあたり、職員がインクルーシブの本質を理解しておくことが必要のため 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な人権に関する意見交換を行うことで、他人の考え、違いに気づき、振り返りをする 年2回のグループワークの実施(テーマ:インクルーシブ保育) 人権意識啓発の標語の掲示 ありがとうメッセージの交換 意識づけのための強化月間を設ける
69	高山 保育園	子ども・保護者・職員一人ひとりの個性、価値観、お互いの立場、存在を認め合い、尊重し、思いやりの気持ちを育む	② ④ ⑧	<p>職員同士が互いを認め合い、働きやすい職場環境を作り、チーム力を向上させ、保護者も子どもも安心できる保育園にしていくため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権チェックリストを活用し、振り返りを行い、会議の中で気づきや反省を共有して、人権の意識を高める。 毎月の保育計画話し合いの中で、子どもの人権について振り返りをしていく。 幼児クラスで、ふわふわ言葉・とげとげ言葉を知らせ、丁寧に関わるとともに思いやりの心を育む。 保護者対応の際には人権を意識して接し、園の人権の取り組みを伝える。 	

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
子ども青少年部（保育園）（つつぎ）	70	またの保育園	子ども・保護者・職員一人一人の違いを認め合って尊重し、相手の立場や思いに寄り添い、相手への思いやりのある肯定的な関わりを大切にする	② ⑧ ⑫	一人一人の個性を大切にし、思いや立場が違ってもそれぞれが、かけがえのない存在であることを認識していくため。また、互いの思いを認め、相手のよい所を見つける心を育み、肯定的な関わりを持っていきたいと考えたため。	・期の目標を週初め朝礼にて、読み上げ職員間で確認し意識していく。 ・子どもたちに向けての標語をクラス内に掲示し、集会を行い人権に関する絵本を読んだり話をする機会を持つていく。歌「すてきななかま」を継続していきながら、人への思いやりや自己の肯定感を育んでいく。 ・保育の振り返りを行ったり、性の多様化等人権を配慮した保育の行い方を話し合っていく。 ・人権についての取り組みについて、保護者に発信したり、保護者に向けてのプラス1の声掛けを行っていく。 ・職員間で互いのよい所を伝え合う機会を持ち、職場のよい雰囲気づくりをしていく。
	71	小糸保育園	お互いの人権を尊重し、多様性を認め合い人を思いやる心をもって行動する	②	一人一人が人権に対して関心を持ち、相手のことを肯定的に捉え、認め合うことで安心して過ごせる環境作りをするため	1. 人権について標語を使用し、朝礼などで確認していく 2. 人権に関する掲示を行い、保護者も子育ての参考に出来るようにしていく 3. 人権のDVDを見て、人権について振り返り参考にしていく 4. 人権チェックをしていく
	72	子育て給付課	外国につながるのがある市民の人権	⑥	外国につながるのがある方の来庁があり、適切な対応が求められるため。研修を通して理解を深め、今後の対応に生かしていきたい。	・課内研修において、年間テーマに関連するDVDを視聴し、意見交換を行う。 ・やさしい日本語について学び、子育て給付課で発行している案内文や通知文の内容の見直しを行う。
	73	青少年課	子どもの人権	②	子どもや若者を取り巻く社会的な課題・問題は複雑化・多様化している。青少年行政を進めていくうえで、子ども・若者とそこに関わる人たちの人権を考慮した取り組みは不可欠であると考えたもの。	子ども・若者とそこに関わる人たちの人権問題について扱った資料を基に、課内での意見交換等を実施する予定。
環境部6	74	環境総務課	インクルーシブな社会を目指す	④	インクルーシブな社会を目指すことにより、多様な生き方、考え方を認めつつ、電話や窓口対応を実施することが必要であるため。	朝礼、課内会議又はメールにて、セクシュアル・マイノリティや障がい者に関連するニュース、新聞記事等を紹介し、課員で情報共有・意見交換を図り、理解を深める。また、電話や窓口にて分別等の相談があった場合には、わかりやすい説明をするよう意識する。年度末に、1年間の取組を通じた課員の感想等をとりまとめ翌年度の取組に反映させる。
	75	環境保全課	外国につながるのがある方々の人権	⑥	外国につながるのがある方に対し、人権を尊重した対応について改めて考える。	課内会議及び資料等で、外国につながるのがある方への対応や、やさしい日本語を意識した窓口等での声かけや聞き取りやすい話し方について確認する。
	76	環境事業	障がいのある人の人権に配慮する。	④	誰一人取り残さない共生社会の実現を目指し、障がいのある方の人権について考え、認識を深める。	資料やDVD等を用いた研修を実施し、基本的なことや現状について学習する。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
環境部 (つづき)	77	南部 収集事務所	③高齢者や障がい者の理解を深め収集業務に努める ⑫セクシュアル・マイノリティについて理解を深める	③ ⑫	・超高齢社会を迎えるにあたり人権意識を高め、収集業務の中で相手の立場を尊重する。 ・収集業務が主な仕事で様々な市民と接するにあたりセクシュアル・マイノリティを正しく理解する必要があると考えたため。	収集業務においては実際に現場に出る為、市民との対話が多い。それぞれの立場にあった対話・対応に努めていく。
	78	北部 事業所 環境	「インターネット・SNS上での人権とは？」 ～あなたの言動は人の心を傷つけてませんか？～	⑪	女子プロレスラーの木村花さんがSNS上で行われた誹謗中傷を苦に自殺するという痛ましい事件等を契機としてインターネットやSNSでの適切な使用方法を確認する。	DVD視聴や担当内での意見交換等
	79	環境石名 事業坂所	「SOGI」に関するハラスメントとコミュニケーション。	① ⑫	本事業所に来所する市民との接遇について、また、プライベートにおいても理解を深めた接遇を身につけたい。	・テーマに関連したDVD等の視聴。 ・研修資料を作成し、職員に閲覧。 ・実際の業務の中で市民に对应しながら職員間でアドバイスなどを行いながら 接遇のスキルアップを図る。
経済部 3	80	産業 労働課	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境の整備	⑧	産業労働課では、ワーク・ライフ・バランス推進事業を行っており、子育て世代の職員も多いことから、働きやすい職場環境を作り、率先してワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	・朝礼の司会を全職員の当番制とし、自由なテーマで発言することにより、職員間のコミュニケーションの活性化を図る。 ・休暇取得等の推進や時間外勤務の削減を行う。 ・担当内会議や課内会議等を利用し、業務課題や執行状況の共有化を図り、相互フォローの取れる体制を整える。
	81	観光 課	「インクルーシブな社会」についての理解を深める	④ ⑫	様々な考え方や多様な生き方への理解がより良い観光都市の実現につながるため。	新聞記事や自治体情報誌など、日頃からセクシュアル・マイノリティや障がい者への合理的配慮等に関する情報の収集に努める。朝礼や課内会議またはメールでの連絡を通じて、それらに関する情報の課内共有を図り、理解を深める。
	82	農業 水産課	高齢者の人権を考える	③	農水産業従事者は高齢者が多い。高齢者の人権について理解を深めることにより、人権に配慮した行動、適切な対応を行うことができるようになることを目指す。	集合研修にこだわることなく、職員ポータルメール等を活用し指針を再確認すると共に、業務を題材として、人権配慮について何が必要なのかを学ぶべく事例紹介・意見交換等を行う。
計画 建築部 7	83	建設 総務課	デジタル化における様々な人権課題について考え、理解を深める	⑪ ⑬	各種届出において電子申請等デジタル化を推進していく中、便利になっていく半面リスクも生じてくるため、広い視野で人権に対する理解を深め、誰も取り残さないためのデジタル化推進業務に取り組む必要があるため。	職場研修等において、DVDの教材を用いた研修を行い、職員相互の理解を深める。
	84	都市 計画課	多様性について理解を深め、より良い職場環境を推進する	⑧	多様性とは、集団における全ての個人がそれぞれに個性を持ち、それぞれの違いをお互いに認め、活かし合うことであり、その理解を深めるため、職員間で話し合える場を設けたいと考えたため。	課内会議等でDVD教材等を用いた職場研修後、意見交換を行う。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
計画建築部 (つづき)	85	街なみ景観課	お互いを活かし合うために多様性について理解を深める	① ⑧ ⑫	様々な個性を持った職員がお互いを理解し、円滑な人間関係を築くことで、働きやすい職場づくりを目指すため。	課内研修において、年間テーマに関連するDVDを視聴し、感想や学んだこと、疑問に思ったこと、自身の体験等について、意見交換を行う。
	86	開発業務課	働きやすい職場環境を整える	①	身近に起こりえる様々なハラスメント行為を防止するため、改めて意識啓発を行いたい。	職場研修にてテーマに基づいたDVD視聴し意見交換を行う。
	87	建築指導課	人に対して無意識の思い込みや決めつけにとらわれていることに気づく。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬	「誰もが無意識の思い込みに左右されることがある」という事実により自覚的になることが、人権課題に対する意識を深める手引きになると考えるため。	年間テーマについて、朝礼やポータル活用により身近な事例紹介や情報共有・意見交換を行いながら、日常の意識付けを促す。
	88	公共建築課	感染症や精神疾患等の患者について正しい知識の普及啓発の推進	⑦	新型コロナウイルス感染症や周囲には気づかれにくい障がいのある人などについて、偏見や差別を受けることがないよう正しい知識を深めて工事監理などに反映する。	リーフレットなどの資料を活用し理解を深め、アンケートなどで意見集約しその内容を課内職員に伝え人権啓発を図る。
	89	住宅政策課	高齢者・外国人・障がいのある方などの様々な立場や状況への理解を深め、丁寧な対応を心掛ける	③ ④ ⑥ ⑫ ⑬	市営住宅への入居希望者や居住支援が必要な方、空家の管理にお困りな方などには、それぞれに異なる状況があることから、個々の立場や違い、考え方を尊重し、寄り添った適切な対応が行えるようにするため。	研修用DVDの視聴のほか、人権に関する記事や実際の窓口での事例について課内会議で意見交換等を行い、気づきや改善点などを共有する。
都市整備部 6	90	都市整備課	男女が共に働きやすい職場環境について理解を深め、意識啓発など積極的に取り組む	①	職場環境について考えるとともに、業務を執行する上で、多くの課の職員や他社との調整を行う職場であることから、お互いの立場を尊重できるよう、日頃の業務に取り組む必要があるため。	課内研修やDVDの視聴を通じて、男女が共に働きやすい職場環境についての理解を深める。
	91	公園課	男女脳の違いを知って、人生の達人になろう	⑬	本課の業務については、要望等が数多く寄せられる。これらに対しては、多角的な見地に立ち、男女の人権を尊重した対応をし、安全安心に使用できるよう整備・管理する必要があるため。	DVDを活用し、男女の人権について理解する。
	92	みどり保全課	様々な働き方に接する機会を通して、ワーク・ライフ・バランスに対する理解を深める	① ⑧ ⑫	職場において複数の職員が制度を活用した働き方を選択しており、課員の理解と協力が不可欠であるとともに、ワーク・ライフ・バランスに対する理解を深めるいい機会であると捉えている。	課内会議等で職場における働き方について意見交換を行うなど、現状を共有するとともに、ワーク・ライフ・バランスを意識する機会とする。DVDなど参考となる資料を活用し、理解を深める。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
都市整備部（つづき）	93	藤沢駅周辺 地区整備担当	働きやすい職場環境づくりと性の多様性に対する正しい理解と認識	⑧ ⑫	本市においても育児、介護休業制度の普及や促進に努めているところだが、職場や性別、年齢によってその制度利用をためらってしまうことも多いと感じる。育児や介護についてはその当事者でなくてはわからない部分もあるが、その大変さなど皆で理解共有することで、仕事と子育て、介護の両立ができる働きやすい環境が作れると考えたため。性の多様性については、昨年行った研修テーマであるセクシュアル・マイノリティについての意識醸成や定着につなげるため。	DVD鑑賞および意見交換。 課内会議における昨年度テーマについての事例紹介。
	94	西北部事務総合	高齢者の人権について理解を深める	③	事務所業務に地元協議会等の支援や公共用地の取得があり、急速に進む高齢化の中で、交渉相手となる権利者にも高齢者が多いことから、高齢者の人権について理解を深め、人権に配慮した行動を目指す。	所内会議において認知症に関するDVDを利用し、職員が高齢者の人権に配慮した行動ができるよう知識と理解を深める。
	95	北部区画 整理事務所	インターネット上における人権	⑪	デジタル人材の育成が求められる状況において、メール等を利用した業務も増加していることから、職員の知識・理解を深めて業務の一助にするため。	1. 課内研修等において資料（DVD及び資料）を活用して知識習得と意見交換を行う。 2. 朝礼夕礼時に年間テーマを意識し、人権施策推進担当者が声掛けを行う。
道路河川部5	96	道路河川総務課	インターネットにおける差別について	⑤ ⑪ ⑫	昨年度インターネットでの人権について職場研修を行ったが、職員一人一人のインターネットへの意識の差があったことから、再度研修を行い、職員の理解を深めるもの。	職場研修にて資料、実例を説明、その後意見交換を行い職員の理解を深める。
	97	道路管理課	「共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち（インクルーシブ藤沢）」の視点に立ち、障がいのある人やセクシュアル・マイノリティの人権に関して理解・認識を深める	④ ⑫	インクルーシブな社会の実現には、多様な生き方、考え方を認めつつ、電話や窓口対応を実施することが必要であるため。	DVD等の教材を用いた課内研修会の開催を基本としつつ、コロナ禍の状況に応じて、集合形式以外にポータルメールやToDo機能を活用する課員の情報共有・意見交換を行うことで、人権意識の醸成を図る。
	98	河川水路課	ワーク・ライフ・バランスの推進	⑧	業務の効率化を図り、職員の時間外勤務の縮減や年休取得を推進し、仕事と家庭・プライベートの両立が出来るより良い職場環境とするため。	①課内会議や朝礼・夕礼時に各業務の進捗状況を共有し効率的な業務執行を心掛け、年休取得及び時間外勤務縮減について積極的な声掛けを行う。 ②課内会議等でワーク・ライフ・バランスについて話題にし、土日祭日を利用して3連休を複数回取得することを目標に心身のリフレッシュとなるよう、年休取得方法を工夫する。
	99	道路整備課	ワーク・ライフ・バランスの推進について考える	⑧ ⑫	職員の働く意識の向上と働きやすい職場環境を目指すため	課内会議等でワーク・ライフ・バランスについて話題とし、職員の理解を深める。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
き道 路 河 川 部 (つ づ	100	道路維持課	インターネット上の人権について理解を深める	⑧ ⑪	スマートフォンなどで、仕事・プライベートに関係なく簡単に情報を得ることや発信することができるようになった。その情報により人を傷つけたりする可能性があることを再確認するため。	課内会議等において、DVDの教材等を用いた研修を行い職員相互の理解を深める。
	101	下水道総務課	インターネット上における人権	⑪	インターネットが今では生活に欠かせなくなっており、SNS等が頻繁に利用されている上での危険性や、安全な利用法・対策について身近な問題として捉えることができるため。	職場研修などでDVD等を活用してインターネット上における人権について考える
	102	下水道管路課	インターネット上における人権	⑪	インターネットの普及により、利便性が図られた反面、リスクも理解し人権侵害を起こさないよう職員の認識を深めるため。	職場研修等において、DVDの教材等を用いた視聴や意見交換を行い、インターネット上の人権について理解を深める。
	103	下水道施設課	②子どもの人権 ③高齢者の人権	② ③	職員に聞き取りを行い、子育て世代もしくは両親が高齢化されている世代が多かった為、各自における身近なテーマとして選定した。	DVD教材を視聴した後、意見交換を実施する。
市 民 病 院 3	104	病院総務課	高齢者が安心して暮らし続けることができる社会をめざし、高齢者の実情やニーズを理解する	③	藤沢市民病院では来院される患者さんの多くが高齢の方であり、高齢者の人権についての理解を深めるものです。	教材の視聴等の研修会を開催し、これに伴う意見交換を通じて高齢者の人権について理解を深める。
	105	医事課	コロナ禍における働き方改革、ワーク・ライフ・バランスについて考える	⑧	新型コロナウイルス感染症の影響で感染等による職員の休みが相次ぎ、限られた人員で通常業務に加えコロナ関連の業務も余儀なくされているが、ワクチン接種や治療薬の開発などで、少しずつ通常の流れになってきたこの機会に、コロナ禍におけるワーク・ライフ・バランスについて学んでいく。	関連団体の啓発資料を活用し、課内会議や職場研修を通して学んでいくと同時に欠員が出た時に全体でカバー出来る体制の構築についてさらに検討する。
	106	教務課	インターネット上における人権の尊重を考える	⑪	看護学生には、患者の人権擁護の観点から、高い情報モラル教育が必要となる。またICT教育を推進する中、教職員自身がインターネット・リテラシーを高め、様々なトラブル(情報漏洩、「いじめ」、犯罪など)から学生を守るための取組が必要と考え、本テーマを設定した。	1.DVD、リーフレット等を活用した人権施策推進指針⑪を周知する。 2.看護学生に関わるインターネット上でのトラブル事例を提示し、課内で共有する。 3.1、2の取組から、教職員が「インターネット上における人権」について理解を深めることができたかを、課内会議や課内メール等で確認。今後の対応に活かせる取組であったかを評価する。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
消防局 7	107	消防総務課	就労者の人権	① ⑧ ⑫	昨年度設定した「男女平等」というテーマを含め、引き続き「消防は男性中心の職場環境」といった既定概念の変化を推進したい。また、「階級制度による厳格な規律保持」がハラスメントや、働きにくい環境につながらないよう、意識変化を推進していきたい。	消防は多くの職員が当直(拘束)勤務となっているため、男女共に働きやすい環境の整備が必要である。そのため、消防局安全衛生委員会や産業医巡視などの際に予算担当者を同行させ、当直勤務者の意見も加味し予算編成を行っている。また、厳格な規律保持が、誤った捉え方によりハラスメントに繋がらないよう、全国の事案等を職員に周知することで、未然に事故を防ぐ取り組みを行っていく。
	108	予防課	高齢者及び障がいのある人への人権について理解を深める	③ ④	高齢者及び障がい者に目を向け、それぞれの立場からの課題を考え、火災予防の意識向上、啓発に生かすため。	・年間テーマに関連するDVDを視聴し、課内会議等で意見交換を行う。 ・毎日のニュースや新聞記事等に注目し、朝礼等で情報共有、意見交換を行う。
	109	査察指導課	インターネット上の人権	⑪ ⑫	HP等で情報発信している内容について問題がないかの確認を今年度も継続し、ネットモニタリングを実施して、より理解を深めるため。	朝礼や課内会議の機会を捉え、具体的な事例や各冊子等を活用し、課員との議論を通じて人権に対する理解を深める。
	110	警防課	お互いの人権を尊重した働きやすい職場環境づくり	① ⑧	消防には、階級制度が設けられており、縦社会によるハラスメントが全国的に多く報道されている。命に携わる職業として、職員の信頼関係の構築が必須であることから職員それぞれを尊重できるテーマとした。	縦社会の中、加害者が気づかないうちにハラスメントを行っている案件がニュース等で取り上げられていることから、消防に関するニュース等について課内で周知する。また、消防職員としての規律を保持する中で仲間を尊重し、働きやすい職場環境を構築する。
	111	救急救命課	支えあいの地域社会づくり	③	救急出動件数が増加する今、全体の約半数が高齢者によるものである。この中で、高齢者を支える地域社会と高齢者に起こりやすい事故等を共有し、ケガ等を未然に防ぐ地域社会づくりに貢献するため。	過去の救急出動を調査・分析し、高齢者の救急需要を把握する。また、その中で、地域や施設における支えあいにおいて、防ぐことができるケガ等を明らかにしていく。この防ぎうる傷病を、関係課や関係機関、高齢者施設にアナウンスしていく。
	112	南消防管理課	就労者の人権について考える	⑧	良い職場環境を作っていくために、まず、就労者の人権について理解を深める。	DVD教材等を使用就労者の権利について理解を深め、より良い職場環境について課内で意見交換を実施する。
	113	北消防管理課	就労者の人権(消防組織という特殊環境における人権について)	⑧	本課業務の代表的なものとして、消防職場という特殊環境における職員の人権・執務環境等について大きく寄与できる。消防は人命に直接関わる職務である以上、厳格な指揮命令系統とその教育が必須である。また、衣・食・住を必要とする24時間勤務体制など、その就労環境の整備についても必須である。これらのことから、特殊環境とはいえ、職員の人権・環境が蔑ろにしては、効率的で的確な消防行政の執行は不可能と捉えていることから、テーマ設定とした。	消防職員行動規範によるチェックリストなどを活用し、職員個人の声が所属長へダイレクトに届く取り組みや、管轄区域を接している横浜市、大和市との3消防署合同グループ討議の実施を予定している。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
教育部 5	114	教育総務課	教育委員会職員としてできること ～人権の視点から～	②	コロナ禍、国際情勢など、先の見えない日々が続いているなかで、いま、教育委員会の職員として配属された私たちに来ること、考えるべきことは何か、子どもの人権を中心に考えてみる必要があるから。また、「藤沢市人権施策推進指針」改定の年度にあたり、改めて「子どもの人権」について考える必要があるから。	・部内会議や朝礼等で、身近な話題から人権を考える機会をつくる。 ・メール等で、身近な「気づき」を発信、共有する。 ・可能であれば、人権擁護委員のお話を伺う。
	115	教育指導課	職員一人ひとりが、学校教育や社会教育の視点から、子どもの人権を尊重することの重要性を正しく認識し、より身近な問題としての理解を深め、人権感覚を磨く	②	子どもに関わる人権課題が多様化・複雑化する中で、子どもの人権について理解を深める必要がある。子ども一人ひとりが人間として尊重されるとともに、人権が守られ成長できる環境づくりを推進するためにも、職員一人ひとりが人権感覚を磨き、学校訪問や研修及び地域活動などの情報提供や機会を要して、幅広い視点から指導・助言を行うことが大切となるため。	担当者が県「人権教育指導者養成講座」(全8回)、県市町村「人権教育担当者研修会」(全4回)、湘南三浦教育事務所管内「気づく感じる人権教育研修会」(全2回)などへ参加し、そこで得た知識や情報を課内会議等を通して情報共有し、職員の意識の啓発を図る。
	116	学務保健課	さまざまな人の人権を尊重する意識を高める	⑥	外国につながる市民や経済的な理由で就学に困っている家庭等、業務においてさまざまな方との対応が必要であるため。	市民からの問い合わせの多い業務について、課内会議や職場研修の中で人権啓発の機会を設け、共通理解を図り、担当外でも人権擁護を意識した基本的な対応ができる体制を整える。
	117	学校給食課	ハラスメントのない職場づくりについて考える	⑧	様々な職種・任用形態の職員がいる中で、パワーハラスメントについて理解を深め、それぞれの人権意識を高めるとともに、働きやすい職場環境を構築するため。	課内会議や職場研修等の機会をとらえて、パワーハラスメントのDVDを視聴し、意見交換を行い、理解を深める。
	118	学校施設課	さまざまな人の人権・さまざまな人権課題について理解を深める	⑬	日常生活の中においてもさまざまな人権への気付きがあることを知る機会を作るため	「人権啓発ビデオアニメで見る全国中学生人権作文コンテスト入賞作品」を視聴し、視聴後に意見交換を行う。
行政委員会等 6	119 120	議会事務局	④障がいのある人の人権を尊重した体制づくり ⑫セクシュアル・マイノリティについて、職員一人一人が正しく理解し、相手の立場や気持ちを思いやって行動する人権意識を高める	④ ⑫	議会基本条例の趣旨に則り、全ての人に優しい、わかりやすい、開かれた議会を実現するため、障がいのある方も議事を傍聴等できる体制を整備する。 多様性を尊重し理解を深めることにより、職場においてもお互いを認め合い、思いやることにより、風通しのよい職場づくりの一助になると考えたため。	議会傍聴に関して ①来庁できない方に対して、インターネットによる同時中継及び録画配信、議会だよりの点字版、音声版を発行するなど、様々な情報発信に努める。 ②聴覚、音声又は言語機能に障がいがある方等に対して、手話通訳及び要約筆記を行う。 ③本会議等の議場で行う会議における、難聴者用ヒアリンググループの貸し出しについて、様々な方法で周知する。 職員の人権意識の啓発について 朝礼や課内会議等を活用し、職員の人権意識の啓発を図る。各種人権啓発リーフレット類や自治体情報誌を活用し、ディスカッション等を行いながら、理解を共有化する機会を設ける。
	121	監査事務局	ハラスメントのない職場づくり	⑧	性別・年代の違う職員が同じ職場で仕事をしていくうえで、人権配慮について理解を深める必要があるため。	DVDなどの教材を用いた研修を行い、意見交換を行う。

部	No.	課名等	令和4年度 人権意識啓発に関する年間テーマ、取組予定			
			年間テーマ	分野別 番号	テーマ設定の理由	今年度の具体的な取組予定
行政委員会等 (つづき)	122	選挙 事務管理 委員会	高齢者の人権について理 解を深める	③	高齢者の中には体が不自由で自力で投票 所に行くことが困難な方であったり、投票用 紙に自書することや誰に投票したいか意思 を表示することが難しい方が多く存在する。 高齢者がより投票所に行きやすい環境を整 備するためには、高齢者について理解を深 める必要があるため。	高齢者の人権に関するDVD等の教材を活 用して職場研修を実施し、職場全体で意見 交換を行う。
	123	農 事業委員 会	男女平等の社会を推進す るために	①	農業委員会の委員は女性が少なく、今後女 性委員数を増やしていかなければならない ため、まずは職員の意識啓発を図っていく。	DVD等の教材を用いた職場研修を行うと ともに、職員間で感想等意見交換をし、人権 意識の向上を目指す。
	124	オ ンブズ マン	外国につながるのある方 の人権問題とその方たち への配慮(支援)について 理解を深める	⑥	業務の内外を問わず市民等の中には外国 につながるのある方もいることから、その方 たちに関する人権問題や、必要に応じ的確に 意思疎通を図るための「やさしい日本語」に ついて理解を深め、適切な支援に結びつけ るため。	外国につながるのある方の人権に関する DVDを視聴するとともに、eラーニングや各 種資料等を活用しながら、外国につながる のある方に関する人権問題や「やさしい日 本語」について理解を深め、職場内で外国 につながるのある方に対する適切な支援に ついて意見交換を行い、情報共有を図る。
	125	会 計課	様々な人権問題につい て、理解を深める	④ ⑥ ⑫ ⑬	普段の生活の中で、差別に関して特段意識 していないと思われるが、それぞれが思っ ている「普通」が本当に「普通」であるか、とい うことを学習することにより、人権意識に関し て、新たな気づきを得るもの。	外国につながるのある方、セクシュアル・マイ ノリティ、障がいのある人、災害時の人権と 様々なテーマを取り扱ったDVDを研修資料 として視聴し、課内において意見の交換を 行う。